

『地域密着型金融の取組み状況』

(推進期間：平成 22 年 4 月～23 年 3 月)

大分信用金庫

地域密着型金融の取組み状況 (22年4月～23年3月)

(金融機関名 大分信用金庫)

1. 項目	1. ライフサイクルに応じた取引先企業の支援強化 (1) 創業・新事業支援
2. タイトル	創業支援・新事業支援の商品及び農業経営資金の推進 相談業務によるサポート強化
3. 動機 (経緯)	創業・新事業支援(スタートアップ企業)への取組みは、信用金庫として最大の機能発揮です。そのためにも創業・新事業支援の事業計画策定から、融資実行後の定期的な計画に対しての実績推移等のフォローを行い、一体となった支援を行っています。最終目的は「おおいたブランド」事業所づくりによる地域経済の活性化、新会社、新雇用、新職場の創出が目的です。
4. 取組み内容	1. 創業支援資金、新事業支援資金、農業経営資金の取組みを職員の目利き能力向上を図りながら推進しています。なお、商品限度額を超えるものや相談内容に応じて保証協会の制度融資の提案や案件に応じたオーダーメイドの融資で対応しています。 2. 取引先の新事業展開などに対して、県の経営革新制度などの公的支援策を積極的に紹介して、ビジネスプランの実現性を高める取組みをしています。 3. 平成23年2月に「中小企業支援ネットおおいた」の専門家派遣事業を活用し、『だいしん矢車会・経営相談会』を実施しました。
5. 成果 (効果)	創業支援資金残高 11件 18百万円(平成23年3月末) 新事業支援資金残高 2件 7百万円(平成23年3月末) 農業経営資金残高 4件 11百万円(平成23年3月末) 景況の低迷に伴い、取り扱い金額は前年と比べて横ばいの状況です。経営相談会では、販路拡大や経営革新等に関する9件の相談を受付しました。
6. 23年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済環境のいっそうの悪化に伴い、創業や新事業案件が減少していますが、的確な金融仲介機能を発揮するため、大分県信用保証協会や農業信用基金協会と事前打ち合わせや、創業・新事業者と密度の高いコミュニケーションを通じて、個々のビジネスプランに応じた取組みを継続していきます。 ・ だいしん「矢車会」「大分デザイン会議」等の組織化運営を通じ、ビジネスマッチングの支援強化を図ります。 ・ 国、県の支援策や産学官共同研究等を積極的に活用し、取引先ニーズに応じた提案によるサポートをしていきます。
7. 添付資料	
8. 備考	

地域密着型金融の取組み状況 (22年4月～23年3月)

(金融機関名 大分信用金庫)

1. 項目	2. 事業価値を見極める融資手法をはじめ中小企業に適した資金供給手法の徹底 (1)担保・保証に過度に依存しない融資等への取組み
2. タイトル	「原点立脚」
3. 動機 (経緯)	現在の経済環境は信金業界の創業時と似ていることを認識して、信用金庫の原点に立ち返って、個々の中小企業のニーズに応じたオーダーメイドの融資取組を推進。担保に依存しないよう、また第三者に保証を求めることがないように、「小口融資推進マニュアル」の勉強会、研修を通じて職員の目利き力の強化を図っています。
4. 取組み内容	1. 平成22年2月より当金庫の既存借入だけでなく他行借入の借換資金も含んだ、金融円滑化支援商品としてメンバーズビジネス応援ローン取扱開始しました。既存の商品も併せて、取引先のニーズに応じた多様な融資提案を行っています。 2. 緊急保証などの公的保証制度を積極的に推進し、中小企業の担保・人的保証に係る負担の軽減と公的支援の活用を図りました。 3. 平成21年12月より設置した金融円滑化相談窓口では、円滑化法の延長に伴い、借入の条件変更や資金繰りなどの相談に積極的に応じています。
5. 成果 (効果)	1. メンバーズビジネス応援ローン実績 (平成23年3月末) 46件／987百万円 年間9億円の残高増加で一定の成果を出しています。 2. 保証協会付融資取扱実績 年間729件／56億円 うち緊急保証取扱実績 424件、36億円 3. 金融安定化法に基づく中小企業向け融資の条件変更等の受付件数1,369件 (平成23年3月末現在) うち条件変更実行1,252件、うち審査中のもの22件
6. 22年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 公的保証制度活用においては、積極的に取り組んだものの経済環境の悪化から保証債務残高は8億円減少となりました。しかし、今後も担保や人的保証力の脆弱な中小企業向けに、緊急保証制度などの支援策活用を積極的に提案していきます。 ・ 担保・保証に過度に依存しない融資の促進を図るため、引き続き取引先ニーズに応じた商品企画と「小口融資推進マニュアル」勉強会等にて、職員の審査スキルの向上を図っていきます。 ・ 金融円滑化については、中小企業の抱えている問題を十分に把握したうえでその解決に向け真摯に取り組んでいきます。
7. 添付資料	
8. 備考	

地域密着型金融の取組み状況 (22年4月～23年3月)

(金融機関名 大分信用金庫)

1. 項目	3. 地域の情報集積を活用した持続可能な地域経済への貢献 (2) 地域活性化につながる多様なサービスの提供
2. タイトル	「地域活性化支援」
3. 動機 (経緯)	「地域性」を重視する当庫としては、伝統行事から若者のイベントまで地域の賑わいづくりへの支援を地域活性化のための具体策として、年間スケジュールに沿い継続して実施しています。
4. 取組み内容	1. 金融面の価格サービスだけでなく、地域行事への参加等の非価格サービスを信用金庫の本業ととらえて評価対象とするなど、地域づくりへの体制整備を行っています。 2. 理事長経済講演会、大分デザイン会議、リトルB活動、信友会、経済研究会、少年サッカー大会、ミニバレーボール大会、お祭りクラブ行事参加等のイベントを単年度で終わることなく継続して実施しています。
5. 成果 (効果)	1. 理事長経済講演会 10 会場開催、大分デザイン会議合同行動 10 回 お祭り等イベント参加 26 会場 2. 平成 22 年度は、大分市鶴崎地区のイベント SAEMON23 パフォーマンス大会で金庫チームが優勝、地元最大のお祭り「府内戦紙」において、「踊り部門優秀賞」を受賞するなど、賑わいづくりの中心として貢献しました。 3. 当金庫が支援することで、人手不足で開催が危ぶまれた伝統行事が継続できたと地域住民に喜んでいただいています。
6. 22年3月までの取組み状況に対する評価及び今後の課題	少子高齢化の影響でコミュニティの活力衰退が危ぶまれているなか、地域住民とともに行事参加することで地域活性化を図り、地域と一体となって大分の経済づくり、社会づくり、文化づくりを推進していきます。
7. 添付資料	
8. 備考	

経営改善支援等の取組実績

大分信用金庫

【22年4月～23年3月】

(単位:先数)

(単位:%)

	期初 債務者数 A	うち 経営改善支援取組 み先数 α				経営改善 支援取組 み率 α/A	ランクアッ プ率 β/α	再生計画 策定率 δ/α	
		αのうち期末に債 務者区分がランク アップした先数 β	αのうち期末に債 務者区分が変化し なかった先数 γ	αのうち再生計画 を策定した先数 δ					
正常先 ①	2,544	0		0	0	0.0%	-		
要 注 意 先	うちその他要注意先 ②	374	26	0	22	20	7.0%	0.0%	76.9%
	うち要管理先 ③	12	6	1	1	6	50.0%	16.7%	100.0%
破綻懸念先 ④	33	20	2	17	12	60.6%	10.0%	60.0%	
実質破綻先 ⑤	42	1	0	1	1	2.4%	0.0%	100.0%	
破綻先 ⑥	34	0	0	0	0	0.0%	-	-	
	小 計 (②～⑥の計)	495	53	3	41	39	10.7%	5.7%	73.6%
	合 計	3,039	53	3	41	39	1.7%	5.7%	73.6%

- (注)
- ・期初債務者数及び債務者区分は22年4月当初時点で整理。
 - ・債務者数、経営改善支援取組み先は、取引先企業(個人事業主を含む。)であり、個人ローン、住宅ローンのみの先を含まない。
 - ・βには、当期末の債務者区分が期初よりランクアップした先数を記載。
なお、経営改善支援取組み先で中に完済した債務者はαに含めるもののβに含めない。
 - ・期初の債務者区分が「うち要管理先」であった先が期末に債務者区分が「うちその他要注意先」にランクアップした場合はβに含める。
 - ・期初に存在した債務者で中に新たに「経営改善支援取組み先」に選定した債務者については(仮に選定時の債務者区分が期初の債務者区分と異なっていたとしても)期初の債務者区分に従って整理すること。
 - ・中に新たに取引を開始した取引先については本表に含めない。
 - ・γには、期末の債務者区分が期初と変化しなかった先数を記載。
 - ・みなし正常先については正常先の債務者数に計上のこと。
 - ・「再生計画を策定した先数δ」=「中小企業再生支援協議会の再生計画策定先」+「RCCの支援決定先」+「金融機関独自の再生計画策定先」